

石井方式 漢字の覚え方

基礎編

漢字の九十パーセント以上が形声字であり、これが漢字の最も漢字らしいところである。この構造をよく理解し、部首の意味を知れば、漢字のもつ深い意義がわかり、はじめて見る漢字でも理解することができるようになる。今まで、この学び方をだれも教えてくれなかつたから、苦労して学習してもなかなか身につかなかつた。諸君はこの編をよく学習して、形声字の真髄を理解し、漢字に強くなつていただきたい。

士 シ

役人が威儀を正して地上に直立している象形。

- ①官吏（卿・大夫に次ぐ）例 士・大夫

- ②武官（さむらい）例 武士・士卒

- ③成人した男子 例 士民

- ④学問に志す人

- ⑤学徳の成った人 例 士君子

仕 シ
①人が官吏となるのは“つかえる”ためである

↓つかえる 例 仕官・奉仕

志 シ
①心に士となると“こころざす”

↓こころざす 例 志望・志願・立志・初志

誌 シ
心の動きを“こころざす”として“書きとめる”（止）

↓するす 例 日誌 (日日誌す)・雑誌
シ
× 痢 皮膚にしるされたもの

↓あざ

問 次の “士” の意味を考えよ。

一、士は以て弘毅ならざるべからず。

二、吉田松陰は士規七則を作る。

寸 スン

手

寸。

① 長さの単位 (約三センチメートル)

② (長さの) 基準

- 2 -

答 .. 一; ④
二; ②

トウ
討

トウ
③ きまりに従つて議論する

↓相手の諭旨の欠点を攻撃する 例 討論

↓相手の軍隊を攻撃する (うつ) 例 討伐・征討

トウ
導 ② 賴るべき基準に従つて人を道びく

トウ
↓みちびく 例 教導・指導・誘導

トウ
守 ③ 家にきまりが行なわれている

トウ
↓まもる 例 守備・守護・攻守

トウ
尊 ④ 酒器を捧げて、神または貴人に供える

トウ
↓たつとが (神・貴人を) 例 尊敬・尊皇

編者注

以下、表記の部首を用いた各漢字で、当該部首が表わす意味に相当する番号を示している。

寺 ジ

士 シ と 才 ジ の 会意・形声字。官吏 ジ が きまりに従つて 物をとりきめるといふ。

① 役所 (○○寺といふのは役所の名前)

② 僧院

③ 部首としては “さまり (才と同じ) ” の意味がある

参考 字音と字訓 (一)

漢字にはふつう “音” オン と “訓” クン とある。音とは、漢字が日本に取り入れられた時の中國読みのことであり、訓とは、その漢字にあたるわが国のことばのことである。

たとえば、 “花” という漢字は、中国では “ガ” と発音されるので、 “ガ” が音である。 “花” ソウカ という使い方がこれである。それは、わが国では “はな” と読む読みは “はな” ということばにあたるので、 “花” を “ばな” と読む読み方が生じた。これが訓である。


樽 ソン 酒を入れる木の容器↓たる 例 酒樽ソウソン さかだる射 シャ ④ 身は レ の変形。弓に手をかける

↓いる 例 射撃 (弓→鉄砲)

専 ゼン ④ 丂は糸巻の象形。子どもが糸巻を手にして離さない

↓ひとりじめるも→もっぽらにする 例 専任・専属・専門

尋 ジン ② 丂は手の象形。工は左、口は右。丂は左手と右手。丂を広げた長さを単位としたもの (約一・五メートル)↓ひろ (手をひろげるの意) 例 千尋の海。 チヒロ

侍 ① 役所につとめる人→君側にあつて奉仕→役人 (文官) シ

↓君側にはべる 例 侍従・侍医・侍女

↓武士 (武官) 例 侍・侍所

注 さむらいはさむらう (君側に侍る意) 人という意味のことば。



参考 字音と字訓 (二)

同じ Album というつづりが、英語ではアルバム、独語ではアルブム、仏語ではアルボムと異なつて発音されるように、欧洲全体に匹敵する広い中国のことだから、地方によつて一つの漢字が異なつて発音される。そのうえ、時代による発音の変化もあるので、一つの漢字がいくつもの発音を持つのはやむをえないことである。ふつう、わが国にはいつてきた時代によつて、『漢音』『吳音』といふ区別をしてゐる。

『唐音』といふ区別をしてゐる。

特 ① 祭礼の犠牲に供するため役所に飼われている牛 トク

↓特別の牛→特別 (それだけ) →独特 (ひとり)

注 トクの音は犢 (子牛) による。

待 ① 役所に行つてその処置をまつ タイ

↓まつ 例 待望 (待ち望む)・待機・待命 タイボウ

注 寺の音の變化 タイがタイと発音される。

時 ③ 太陽 (日) の運行が “どき” の単位 ジ

↓とき

持 ③ きまりを手にする ジ

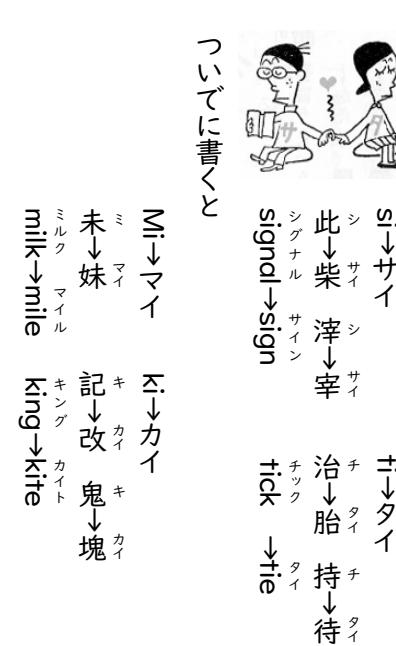
注 まもる 例 護持・持戒・持仏 (守り本尊)

↓たもつ (長く続ける) 例 持久力・持続・維持・持病

参考

混同される音

サ行音とタ行者とはよく通じあつ。子どもは、お父とうさんをお父たんと言つ。汽車をキチャと言つ。侍・詩・持はこの例である。また、シ・チはヂ・ジと発音されやすい。時・侍がこれである。また、シ・チがサイ・タイと変化するのも英語の発音と似ていておもしろい。



ついでに書くと

詩 漢音はチ (シの変化) 吳音はジ (ヂ)。
③ 字数や言 (いじば) の表現のうえに一定のきまりのある文

→韻文 例 漢詩・新体詩

恃 ③ 心に一定の頼るべき基準が確立している

→心にたのむといふがある 例 託恃 (熟語編参照)

等 ③ 竹筒 (竹ふた、昔の記録) をきまりよく整理する

→順序立てる 例 等級・一等二等

→同類を集める (ひとしい) 例 同等・均等

問 次のことばの意味を考えよ。

一、持病 二、持戒 三、待機 四、怙恃

ん→詩經

ん→詩經

答 一、長く続いている病

気。二、仏の戒を守る。三、機会を待つ。四、たのむ。(父無くんば何をか怙まん。母無くんば何をか恃まん。)

及 キユウ

- ① 前を行く人を、後ろから手をかけた形。
 ② 後ろから追う
 ③ かまえる

寤 ゴ

- ① ことば
 例 語義・語録・敬語
 ② さとる
 例 悟得・了悟・覚悟
 ③ ねむり (寝) からさめて吾にかかる
 例 醒寤・寤寐にも忘れぬ

ア (人) 又 (手)

- 前を行く人を、後ろから手をかけた形。
 ① 後ろから追う
 ② 追いつく
 ③ かまえる

悟 ゴ

- 心に吾を認識する (他人のよしあしはよくわかるが、自分を認識することはむづかしい)
 例 語義・語録・敬語

吾 ゴ

- ① 鼻を指さしたのが “自” と “私” である。自とムは、ともに鼻の象形である。
 例 吾言うという意味の会意・形声字

↓かたる 例 豪語 (大きな事を言う)

吾 ゴ

- ② 自分の顔を指さして “ぼく” と言う。口を指さしたのが吾である。
 例 落伍 (隊列から抜け落ちる)



五 ゴ

- ① いつつ 例 伍
 ② 指で示す 例 吾

五 ゴ

伍 ゴ

- ① 軍隊では五人を一組みとし、部隊の最小単位とした。この長が「伍長」である。
 ② 隊伍 (隊列) から抜け落ちる
 例 落伍 (隊列から抜け落ちる)

片方の手の象形。指が五木あるので “いつつ” を表わした。指事字。

石井方式 漢字の覚え方

令

レイ

△(集) △(しるし)

天子が諸侯を召集して授けるしるし

① 諸侯を認証する辞令

× 筒

キュウ

① 後ろから負う竹製の箱

キュウ

① 後ろから追うときの心 (当は及の変形)

↓ いそぐ 例 至急・緊急・急行

↓ あわただしい 例 性急

↓ にわか 例 急激・急変

× 汲

キュウ

③ 水をつかまえる

↓ くむ 例 汲水・汲出・吸引

↓ いそがしい 例 汲汲

吸

キュウ

③ 口でつかまえる

↓ すう 例 吸入・吸引・吸收・呼吸

扱

(キュウ)

③ 手でつかまえる

↓ あつかう 例 取り扱う・扱い方

級

キュウ

糸を扱いやすいようにする

↓ 分類する 例 学級・高級品

↓ 順序立てる 例 階級・進級

問 次のことばの意味を考えよ。

一、笈を負う 二、汲汲 三、汲引 四、吸引

汲み上げる。②水を引き入れる。③人物を登用する。四、①吸い取る。②吸い込む。③人を引きつける。

↓② 役所から出る書状 例 政令・法令

↓③ りっぱ(よい) 例 令名・令聞

↓④ つめたくぎびしい

命 ① 口で直接に伝える令

↓命する

↓天命(天の命令)

↓いのち(天命によって決められる)

齢 レイ
歯(年歯)・令(生命)

↓とし 例 年齢・老齢・妙齢

鈴 レイ
③ 金属で作ったよい音を立てるもの

↓すず 例 銀鈴・風鈴

注 中国音では令はリン。鈴の音色を直接表わしている。

玲 レイ
③ 玉が美しい。玉が美しい音を立てる。

↓すきとおるよう美しい(水晶)

↓輝くよう美しい(ダイヤモンド)

↓リンリンと美しい音を立てる

×怜 レイ
③ 心がよく働く

↓さとい(賢い) 例 怜俐

冷 レイ
④ 法令は氷(-)のように

↓つめたい 例 冷水・寒冷・冷凍

零 レイ
④ 同じ雨なのに冷たく感ずるのは

↓しづく(零の本義)

石井方式 漢字の覚え方

險

↓わづか 例 零細・零余
↓おちる 例 零路・零落

僕

↓あぶない 例 危険・冒険
↓つづまやか 例 僕約・節僕

④ きびしい崖は?

↓あぶない 例 危険・冒険

験

↓しらべる 例 検査・検察
↓ためす 例 実験・験算

【注】昔の書物は木の札か、竹の簡であった。

檢

② 書物(木)により良い考え方を求める

↓④ きびしい(選択が厳格だから)

↓② 良い考え方(物)を求める(こと)

↓③ つまらぬもの(むだ)を省くこと

僕

④ 僕 亻(集)・口・人
例 公卿僕議
クギョウウセンギ

① 人々が集まって意見(口)を述べる

↓② 良い考え方(物)を求める(こと)

↓③ つまらぬもの(むだ)を省くこと

一、口

一、口落二、口害三、口瓊四、電口五、適口

【注】今では数字の〇に用いる(仮借)。

問 次のレイを漢字で書け。

答 一、零 二、冷 三、玲
四、鈴五、齡

石井方式 漢字の覚え方

~~癒~~ **ユ**
② 病人を望ましい状態に運ぶ

【注】 先生は、わからない生徒をわかる所まで運び届けなければならぬので、
“教諭”と云う訳である。

↓さとす 例 教諭・説諭

諭 **ユ**
② 言ことばにより人を望ましい状態に運ぶ

↓たのしい 例 愉快・愉悦

愉 **ユ**
② 心を望む所(望ましい状態)に運ぶ

合っている。

【注】 今では舟で運ぶのにも輸を使う。輸入・輸出は、愈入・愈出のほうが理屈に

輸 **ユ**
② 車で品物を望む所に運ぶ

↓はこぶ 例 輸送・運輸・輸血

↓② 品物を望む所に運ぶ

𠂇 **ユ**
① 川に舟を集める

② 品物を望む所に運ぶ

𠂇 **ユ**

① 愈々(集)・月(舟)・川(川)

六、実□ 七、保□ 八、□約□ 九、□討□ 十、□事□

問 次のケンを漢字で書け。

一、探□

二、冒□

三、試□

四、勤□

五、銃□

六、險□

七、験□

八、僕□

劍 **ケン**
④ きびしい刀は?

↓つるぎ 例 刀劍・銃劍

答 一、檢(探り検べる) 二、

三、験(冒頭) 四、僕(試験)

五、劍(勤勉)

六、

七、験(危險保証) 八、僕(事務)

九、檢(勤勉)

十、檢(勤勉)

【注】 𠂇は崖の意味の部首。

石井方式 漢字の覚え方

↓病気がいえる 例 治癒・平癒・快癒
癒という字もある。

【注】癒といふ字もある。

×**喻** ② 口により人を望ましい状態に運ぶ
↓さとす（本義は諭と同じ）

↓たとえる 例 比喻

【注】たとえ話を用いてさとすとわかりやすいので。

偷 ② 物を運びさる人（ただし好意でない）

↓ぬすびと 例 偷盜（トウトウ）・偷安（シヨウ）
舟の音が変化した。

【問】次のユを漢字で書け。

一、運□ 二、快□ 三、□樂 四、說□ 五、比□

答
一、輪 二、癒 三、
四、諭 五、喻 六、
病気がなおりのこと。七、熟語編参照。八、告げやとす。

毒 コウ

木をたてに横に交差させ、組み合わせた形。

音は交差のコウ。

①（木を）さしわたす
②組み立てる

構 コウ
①木を左右前後にさし渡し組み立てる

↓かまえる 例 構築・構内

講 コウ
①②言（ことば）を組み立て、それを相手にさし渡す

↓説き話す 例 講義・講演・講話

購 ① お金を相手にわたし、交換に品物をもらう
↓あがなう（買う） 例 購入・購読

【注】 貝は財貨（お金）の意味の部首。

溝 ① 水をこちらからあちらへとさし渡す設備
↓みぞ 例 排水溝

問 次のコウを漢字で書け。

一、口堂 二、口買 三、口造 四、聴口 五、海口

次のことばの意味を考えよ。

六、購読 七、講読 八、構想

答 一、講 二、購 三、構 四、講 五、溝 六、新聞や書物などを購入して読むこと。七、書物を読んで講義すること。八、作品の組み立てを考えること。

且 ソ

地上に同じ物が三つ積み重ねられている形である。三は多いことを示す。

- ① 物をたくさん積み重ねる
- ② 積み重なる

租 ソ

② 積み重なった稻は税として納めるために用意されたものである

↓税 例 租税・地租

【注】

昔は収穫した稻の一部を国費にあてるために納入した。これが租税である。今は金で納めるので、税金と言つ。

粗 ソ

② 稲は殻のついたもの。白でついて殻を取れば米になる。租税用は長く保存されるので禾であるが、家で保存するのは米である。ただし、精白しない米である

↓玄米（粗米）
あらまい

石井方式 漢字の覚え方

【注】 玄米を臼でつくと黒皮やぬかが取れて精米（白米）となる。玄とは黒の意。

查 サ
 ↓あらい 例 粗雑・粗悪
 ① 書物（木）を積み重ねるのは？

↓しらべる 例 調査・検査

注 so が sa に変化するのを同行相通と言う。よくある音韻変化である。

祖 ソ
 ② 父・祖父・曾祖父・高祖父と、重ねられたのは？

↓先祖

注 ネは神の意味の部首である。先祖様は神様である。

組 ソ
 ① 糸を重ね合わせて作ったのは？

↓くみひも

↓（糸を）くむ

例 組織・番組

阻 ソ
 ② 崖が重なっている所は？

↓けわしい 例 險阻・峻阻

↓はばむ 例 阻止・阻害

× 痘 ソ
 ② 積み重なった病気とは？

↓はれもの 例 瘡瘍

助 ジョ
 ① 力を積み重ねるとは？

↓たすける 例 援助・救助・助手

問 次のことばの意味を考えよ。

一、阻害 二、粗野 三、改組 四、地租
 答 一、崖が行く手をはばむように、行動を妨げること。二、野は野卑。あらっぽくて卑しい。三、組織を改めること。四、土地に對して課する税。

青 セイ

⑩ 青主 (生)・月 (丹)
セイ タン

丹石という石から染料を取る。その色は?

① あお (丹より生まれる)
・

② すぐれている

清 セイ
① 水の青くすきとおって見える状態
↓きよい例 清潔・清新
セイ晴 セイ
① 空が青く、日が出ているときの天気
↓はれ 例 晴天・快晴
(セイ)・
② 心のすぐれた状態 (真心)
セイ ジョウ

↓なぞけ (思いやりの心)

- 14 -

例 人情・情愛
セイ請 セイ
② 真心をこめて言つ
(ジョウ)↓こう 例 請願 (こい願う)・要請・請求
セイ靖 セイ
② 落ち着いて静かに立っている
△水が静かに流れ波も立たない所↓やすらか 例 靖安
セイ↓しずめる 例 靖乱
セイ・
② 爭いのないすぐれた状態
セイ↓しずか 例 静寂・静止・閑静
セイ△水が静かに流れ波も立たない所
↓とろ 例 長濶・濶八丁
セイ② 目の中で最もすぐれた所
セイ

注	② 川の水は中心である海に集まる
→ そぐ (海に注ぐ) 例 注水	↓ 集中する 例 注意 (心を集中する)
× 註 ② 字句の意味を明らかにするため ↓ 註釈・註解	住 ② 人が集中する↓ 村ができる
↓ どどまる	↓ すむ 例 居住・移住・安住・住民

注 チュウ (2) 川の水は中心である海に集まる

↓ そそぐ (海に注ぐ) 例 注水

↓ 集中する 例 注意 (心を集中する)・注視 (視線を一点に集める)

② 字句の意味を明らかにするために、説明のことばを集める

注 シュウ→シユウ→ジユウ

主 シュ
柱 チュウ
○ 燭台にあかりのついている形。あかりは家の中心に置かれる。
① 中心 例 主人・主将・国主
② (中心に向かって) 集まる (集中)
① 家の中心となる木。
↓はしら 例 柱石・支柱・電柱

問 次のことばの意味を考えよ。

ろうと考えてはいけない。

注 青い目だから、西洋人が。



答 一、人情と義理。二、情の深い
交わり。三、熱心におりいって願
うこと。四、動くのと静止するのと、
つまり、物事の様子。

駐 チュウ

② 馬が集中する

↓軍隊がどどまる 例 駐屯 トント

↓役人がどどまる 例 駐在大使

↓馬をどどめる

↓乗り物をどどめる 例 駐輦レン・駐車

問 次のことばの意味を考えよ。

一、柱石 二、進駐 三、傾注

攴 セン

⑩ 攴 戈は武器（ほこ）。ほこを交え互いに傷つけあう。

① 傷つきそこなわれる

② 少なくなる→わずか

浅 セン ② 水が少なくなつてわずかしかない

↓あさい 例 浅瀬・深浅 あさせ シンセン

↓貧弱 例 浅才

錢 セン ② わずかな額のお金

↓錢は円の百分の一

× 賤 セン ② 財産がわずかしかない

↓ますしい（貧乏）

↓いやしい（身分が低い） 例 下賤

× 餌 セン ② わずかな食事と謙遜して言う

↓送別の宴（はなむけ） 例 餌宴・餌別

【注】 送るがわが謙遜して餌と言う。

答 一、柱や土台石は家を支えるもの。そのような重任を負う人を言つ。二、外国に軍隊を進め、とどまる。三、ある事に心を傾け注ぐこと。

石井方式 漢字の覚え方

箋 セン ② わずかな竹ふだ (簡)

↓ちょっととした記録をするもの

例 便箋・通信箋・処方箋

盞 サン ② 小さな容器、浅い容器

↓さかずき

注 杯 (さかずき) は木製のもの。

桿 サン ② 小さな木の切れ、細い木の切れ

↓障子のさん

↓かけはし (まほしい橋)

例 档橋・桿道

問 次のことばの意味を考えよ。

熟語編参照。

答 一、病気を処置する方法 (薬の調合) を書いた紙片。二、いやしい技術。自分の技術を謙遜して言う。三、①不正な事をして得た金銭。②質の悪い銭。四、

喬 キョウ

夭 (夭)・高 (高) $yo + ko = kyō$

頭が曲がつた人。

① 高くそびえる (高が "だかどの" の象形)

② そりかえる (夭の転義) 例 橋

③ いばる (そりかえり、高ぶる) 例 騒

② 橋のまん中が高くそり返った形をしているもの (アーチ形)

↓太鼓橋 (橋の本義) ↓橋

注 力学的にも強いので、中国には昔からこの形のものが多い。

驕 キョウ ① 背の高い馬

一、処方箋 二、賤技 三、悪錢 四、桿道

石井方式 漢字の覚え方

経 ケイ

①

織機に張った"たて糸"

②

まっすぐに通す

③

基本(重要)

↓たいせつな書物

例 経典・經文

聖 ケイ

① たて糸

② 壓機(はた)に"たて糸"を張った形を表わしたもの。

答 一、言行がふつうと変わっていて正常ではないこと。二、正常でないものを矯めて正しくする。三、おびり高ぶる。四、愛らしい子ども。

① 壓の高い(豊麗な)婦人

② 愛らしい例 嬌児・愛嬌

① 背の高く育つ植物

② そば(茎が高く伸びる)

③ 矯正

④ 曲がっている(いつわる)

× 嬌 キョウ

この嬌は高の本義"たかどの"。人が建物に身を寄せる意

× 蒿 キョウ

① 背の高く育つ植物

② そば(茎が高く伸びる)

× 矯 キョウ

② そりかえった矢"……では役にたたない

× 嬌 キョウ

① ためる(まっすぐにする)

② 曲がっている(いつわる)

× 蒿 キョウ

① 背の高く育つ植物

② そば(茎が高く伸びる)

× 矯 キョウ

① 背の高い(豊麗な)婦人

② 愛らしい例 嬌児・愛嬌

③ 蒿 キョウ

④ 嬌姿・嬌羞 シュウ

↓勢いがよい 例 騎陽(はげしい日光)

↓たかぶる(おがる) 例 騎奢・騎恣 シヤ

↓なまめかしい 例 嬌姿・嬌羞 シュウ

注 織機の横糸は一本だけで、切れても簡単につなげるが、縦糸は切れたらおしまいである。孟子の母は、学問を中絶するのはこのようなものだ、と言つて織りかけの縦糸を切つて、孟子に教えたと言つ。

↓おさめる（いとなむ） 例 経営・経済

↓小道 例 径路

径 ケイ ② つづら折りの山道の所々に設けられたまっすぐな近道

↓まっすぐな道 例 経線（地図の）

↓近道 例 直径（円の）

↓小道 例 径路

注 いは行の省略した形。道の象形（△）で、道の意味を表わす。

注 直径は、円周上の一点から反対がわへ、円周に沿つて行く行き方に対し、近道の意である。

輕 ケイ △ 径（小道）を走らせる車（径車）

↓かるい車 例 軽快・軽便

↓かるはずみ（軽率） ↓かるんずる（軽蔑）

茎 ケイ ② 草のまっすぐに通つた部分

↓くき

脛 ケイ ② からだの中でもまっすぐに通つた部分

↓すね

頸 ケイ ② 頭の部分でもまっすぐに通つた部分

↓くび

注 首を“くび”と読むが、そのくびは頭の意味である。首を取る、首領、元首、皆、頭であつて頸ではない。首を取るとき、頸を切るので、首と頸とが混同する

易 トウ
チヨウ

日 (太陽)・ミ (陽光)・丁 (チヨウ) 太陽の光のふりそそぐ」と。
トウ→チョウ→ヂョウ ショウ→ジョウ] →ヨウ

× 痘 ケイ

② からだの中を通っている “すじ” の病気

↓ ひきつれ (痙攣) ケイレン

② つらぬき通す力があること

↓ つよい 例 雄勁

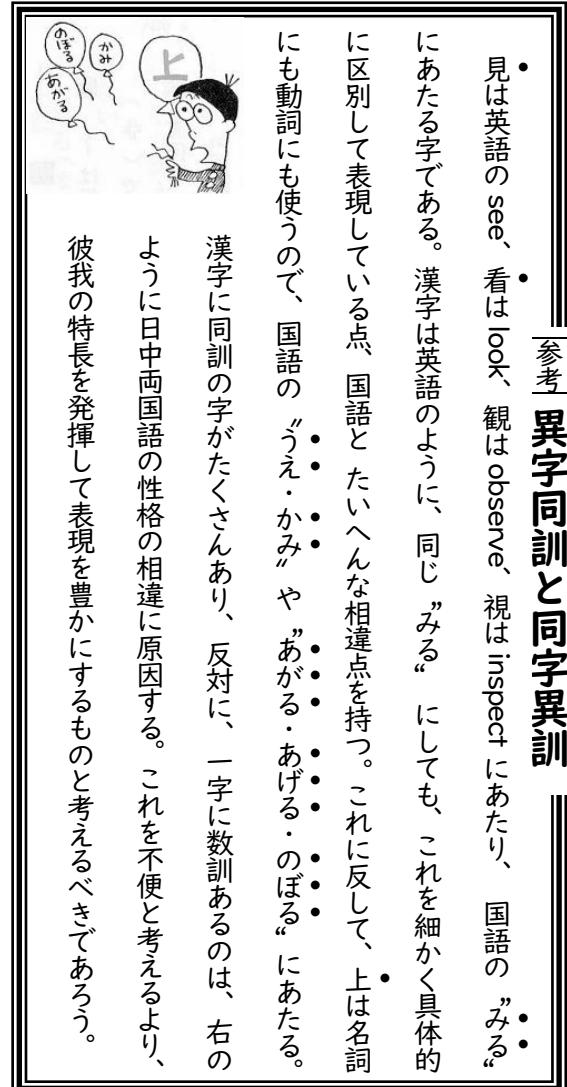
次のことばの意味を考えよ。

一、経済 二、経線 三、軽便 四、刎頸の交わり

答 一、経国済民の略、国家を経 ケイジン
め、人民を済すという意味。人 間生活に必要な物の生産・分配。
消費する行為についてのいっさいの社会的関係を扱う。転じて金 銭のやりくり。二、地球上の位 置を示すために、両極を通つて南

剣 ケイ △刀 (丶) で頸を切ること
↓くびきる

ようになつたのである。



石井方式 漢字の覚え方

① 日があたる

② 日あたりがよい

③ 長ながい（仮借）

湯 トウ
① ためた水に日があたる

↓日なた水（湯の本義）

↓ゆ 例 錢湯・薬湯・湯治

注 昔は今のように火が自由ではなかつたから、太陽光線を大いに利用したものである。

陽 ヨウ
② 日あたりの良い崖がけ（阷）

↓南面した斜面（山の南側） 例 山陽

↓あたたかい 例 陽春

↓あかるい 例 陽気

↓日 例 太陽・陽光

注 中国山脈の南側を山陽地方というのは、よく陽の本義を用いている。

場 ジョウ
② 日あたりの良い土地

↓よいところ（場の本義）

↓ところ 例 牧場・工場・農場・戦場

注 場は吳音。漢音はチヨウ。今漢音で読む語はない。農場は、農事をするのに“よい所”的意味、また日あたりのよい所と考えることができる。

暢 チヨウ
③ 伸は伸の本字。長く引き伸ばす

↓のびる 例 暢達（伸び育つ）

↓のびのび 例 流暢・暢達（文章や言語がのびのびとしていて意味がよくわかる）

こと

注 申は申で、両手で棒を引きのばす形。
“もうす”の意に仮借されたので、伸の字
が作られた。

腸 チヨウ ③ 人体の中で最も長くのびのびとして
いる部分は？

↓はらわた 例 大腸・小腸

傷 ショウ △傷は場の略。日にあたるのでなく
て、矢にあたること。傷は人が矢にあた
ること

↓きず 例 負傷・重傷

注 傷は本来矢きずであるが、刀きずは創、
槍きずは瘡、切りきずは痍。
問 次のことばの意味を考えよ。

一、河陽 二、流暢 三、断腸 四、傷痍軍人

莫 モ マク パク ボ



草と草の間に太陽が隠れた形。
太陽の沈みゆく姿を表現した字である。

① 日が隠れて見えない

② タぐれ

③ (草原が) 果てもなく広い

注 莫の音は、マカが草の茂つてある形であるのによつて、本来は茂である。
例 寂莫(一、果てもなく広い)③ 二、だが何もない① 三、タぐれ② 二の三

答 一、山は南側が日あたりが良いが、
川の場合はその北側が日あたりが良
い。河陽は川の北側を言つ。唐の都で
名高い洛陽は、洛水の北側にあるので、
この名がある。二、熟語編参照。三、
訓読みでは、腸を断つと読む。非常に悲
しい思いを言つ。四、軍人の受ける傷
は鉄砲玉によるものか、切り傷である。
前者は矢きずの傷でこれを表わしてい
る。痍は、切りきず。戦傷を受けた軍
人を巧みに表わしたことばである。

石井方式 漢字の覚え方

つからくるさびしい感じがこのことばの意味をよく理解させてくれる)

× **寛** パク
① 家の中の人気がない

↓ひつそりと静まりかえっている

↓さびしい 例 寂寥

暮 ポ
② タグレ時の心の状態は?

↓人がしたわしい

↓したう 例 恋慕・敬慕・慕情

募 ポ
② タグレの力め

↓放牧の家畜を呼び集める

↓つのる 例 募集・公募・応募

暮 ポ
② 莫が“タグレ”の本義に用いられなくなつたため、これに“日”を加えて“タ

ぐれ”専用の文字を作つた
↓タグレ

↓年のくれ 例 歳暮

墓 ポ
② 人生の暮れ、終着所の土、それは?

↓はか 例 墓地・墓標・墓碑

幕 パク
【注】平坦なのが墓、土を盛つたのが冢、高く築いたのが墳である。

② タグレのように家の中を暗くする布

↓まく 例 帷幕・幕府・幕政

【注】漢音はパク、吳音はマク。

△ 幕の“物を隔て”たり、“物を囲つたり”する意の莫と月（肉月）とで、

↓臓器を隔てるもの 例 横隔膜

参考 漢音・呉音・唐音

漢音は、漢字の最も代表的な字音である。わが国が、中国と正式に国交を結ぶようになって、唐の国都長安の標準的な発音を取り入れ、以後漢字の代表的な標準音となつたものである。京・丁・明・行という発音がこれである。

呉音は、それ以前、仏典などとともに、中国の南部地方（呉と呼ばれる）からはいつてきた音で、京・丁・明・行という発音がこれである。

これである。仏教に関係あることばが多く、古くから親しんでいるため訓のように感ぜられるものもある。絵は漢音だが、絵は呉音で、これなど字訓と誤られることが多い。

唐音は、唐よりずっとのち、明・清時代の音であるが、これを唐音と言つのは、中國のことを唐人と呼んでいたためである。京・丁・明・行という発音がこれである。



モ
摸 モ
② タぐいで物が見えないので、手で？

↓さぐる 例 摸索

手で物をさぐるときは、手の感触で、見えない物の形を心の中に描く

↓実物とそつくりに心に描く

↓似せる（まねる） 例 摹写・模倣・模擬試験

モ
△ 似た物をたくさん作るときには、

↓かた 例 模型・模範

注 木で作ったかたを模、土で作ったかたを型、竹で作ったかたを範と言つ。

似せる意味の莫と木とで、"木のかた"を表わした。

漠 ③ 水が果てもなく広く続く

↓海（漠の本義） 所海のように広く平らで何もない所

↓砂漠（砂の海）

海は果てもなく広いので

↓とりとめがない 例 漠然・空漠

驀 ① 日が暮れて道が見えないのに馬を

↓がむしやらに走らせる 例 驀進

↓まつしぐら 例 驀地（地は助字）

貘 羽は“むじな扁”と言い、四つ足の動物の象形。獸類の意を表わす部首③ とりとめがない獸とは？

↓実在しない想像上の獸

↓人の悪い夢を食べて邪氣を払ってくれるという靈獸

【問】 摸が常用漢字にないため、模を代用させ

せる書き方が通用している。次の模のうち、

正しい用法には○を、模の代用には×をつけよ。

答 ○一、四、五、六

(イ) 武将は陣営に幕を張りめぐらし、これを宿所とした。ゆえに、武家政治を幕政と言い、その役所を幕府と言った。(口) 空も漠（海）もともに果てもなく広がっているので、①果てもなく広い様②つかみどころがなく、要領を得ない様を言つ。(ハ) 暗やみの中を手さぐりで求めめる。索は、もつれた糸をほどくために、糸口をたどって求める。困難なことだが、とにかく努力してやってみること。

次のことばの意味を説明せよ。

(イ) 幕府 (ロ) 空漠 (ハ) 暗中摸索

用 ヨウ

用

牧場に張りめぐらした柵の象形で“ぱりめぐらす”が本義。「用心」は従来、心を用いると解いているが、“心を張りめぐらす”と解くのがよい。

柵のどこに破れがあつても、中の牛は逃げてしまう。どこにも破れがない

ように周囲のすみずみまで心を張りめぐらすのが「用心」である。柵は牧

場になくてはならぬものゆえ、“必要”“役にたつ”“使う”的意がある。

角 ヨウ

マは子の頭と同じ。柵の上に頭の見えている形。柵の様子を見に、見回つていることを表わしている。

- ① (柵を) 張りめぐらす
- ② (柵にそつて) 行く
- ③ (柵の周囲を) まわる

踊 ヨウ
③ 足でぐるぐるとまわる

↓おどる 例 舞踊

注 踊りといふものは輪を作つて、ぐるぐる回りながら踊るものである。

△ “踊る人形”といふ意味の字。手足が動くようになつてゐる人形で、死者とともに葬つたもの。孟子に『始めて俑を作つた人は、その子孫が必ず滅びるであろう』と書いて、俑を作つた人を憎んだことが書かれている

涌 ヨウ
△ 水が踊り出す

↓わく 例 涌出・噴涌・涌泉

注 地中から、地下水が涌き出ることである。

勇 ヨウ
△ 涌き出る力

↓地下水の涌き出るようくに、からだの中に溢れ出てくる力(溜り水のようくに、

石井方式 漢字の覚え方

周 シュウ

用・口
口をめぐらす。

↓ひどい 例 痛快・痛感・痛烈
痛=病気を通信

↓いたい 例 苦痛・激痛

【注】痛みそのものは病気ではない。からだのその部分が病気に犯されつつあることを通信するものである。

痛ツウ (トウ) ①からだに張りめぐらされた神経に感ずる病気

↓おけ
湯桶読みの桶 (漢音はトウ)

桶 ヨウ
①木を張りめぐらして作った容器

【注】通人とは、世の中の万事を知りつくした人という意味。

【注】通は、単に“歩”や“行”的意でなく、それがすらっとうまくいくことである。

△ 涌と同音同義に用いられる
ユウは慣用音。例 涌出・湧泉
通 (トウ)
② 柵 (ガードレール) にそつて道を行く
↓うまくとおれる(通の本義)。漢音トウ
↓すらっとおる 例 通行・便通

使えばなくなってしまうような力でなく、使えば使うほど漲みなぎつてくるよ
うな力)

参考 重箱読みと湯桶読み

じゅうばこ ゆうとう

漢字は、二字以上組み合わせられ、熟語として使われることが多い。この場合、上を音読すれば下も音読し、上を訓読すれば下も訓読するのがふつうである。ところが、古くからの習慣で、重箱のよう^{シユウバコ}に上を音読し下を訓読するもの、湯桶のよう^{ヨウバン}に上を訓読し下を音読するものがある。これらを俗に“重箱読み”^{シユウバコミ}と訓読するものがある。

“湯桶読み”^{ヨウバンミ}と訓つ。



例 (重箱読み) 役場・中古・肉屋・台所・本場
(湯桶読み) 見本・場所・古本・身分・組曲

① ことばをじゅうぶんに尽くして説明する (本義)

② 物事がよくゆきどく 例 用意周到

③ めぐる (用の本義) 例 周期・円周・周遊

週 ③ まわり (周囲) をまわる (・)

↓ひとまわり 例 週間

注 曜日が七日でひとまわりするので、七日を週と言つ。

稠 ② 稲の手入れがよくゆきどく

↓豊かにみのる

↓多い 例 人口稠密

調 ② 言 (ことば) がよくゆきどいたので、物事が?

↓ととのう 例 調和・調節

そのために必要なことは、事前に

カ
ン
美
タ
ン

黄・土の会意字。

中国の黄河の上流には広大な地域にわたって黄土層がある。
黄土が黄河にとけ込んで常に黄色く染めている。

↓しらべる 例 調査・調書

注 わが国では音楽を奏することを“じらべる”と言つ。それで、調子・長調・短調などの用法が生まれた。

× **瑣** チョウ △ 玉を切り、碰り、琢ち、磨いてよく調えること

△ よく調えられた玉に最後のみがきをかけて美しく仕上げること
彫 チョウ △ よく調えられた玉に最後のみがきをかけて美しく仕上げること

注 ミは“美しい”“がざり”の意味の部首。今ではその前の“ぼる”“きざむ”

意味に使用している。 例 彫刻

× **凋** チョウ ② 寒さ(こ)があまねくゆきわたると、草木は?

↓しほむ 例 凋落(熟語編参照)

× **蜩** チョウ ② 鳴き声のよくゆきわたる虫は?

↓せみ

参考 「ととのう」の同訓異字

調 準備がよくゆきとどいてととのう

整 すべてがそろつてととのう

齊 一様にまとまってととのう

均 つりあいがととのう

問 次のことばの意味を考えよ。

一、凋落 二、調馬 三、周知 四、周旋

答 一、熟語編参照。二、馬

を調える、馬を乗つて訓練すること。三、あまねく知れつている。四、周も旋もめぐる。めぐり歩くことで、世話をする意味に使われる。

堇

キン

黄土は、質いたつて細かく、粘つて扱いにくい土である。

- ① 黄色い
② 細かい

③ 扱いにくい

注 堇と堇はもとは同じ形。堇は扁、堇は旁に使われることが多い。

× 艱 カン ③ 根本から扱いにくい → どうにもしにくい

↓ ひどくむずかしい 例 カンジゅう 艱渋

↓ なやみ 例 艱苦・艱難

難 ナン ① 羽が金色（黄）をした美しい鳥（隹）

↓ 黄鳥（この字の本義）美しい鳥なので、手に入れることが

↓ むずかしい 例 困難・難題

嘆 タン ③ 『ああ、扱いにくいなあ』と思わず口につぶやく

↓ なげく 例 嘆息・悲嘆・愁嘆

ため息をつくことから

↓ 感嘆（感心して声を出す）

歎 タン ③ 欠は々（口を大きく開いた形）

嘆と同音・同義

例 感歎・歎息・悲歎・愁歎

謹 キン ② 言（ことば）の使い方が細かい → ことばが少ない

↓ つしむ 例 謹慎・謹言・謹嚴

注 ことばをつしむのが謹、心をつしむのが慎。

石井方式 漢字の覚え方

× **僅** キン ② 人が少ない

↓ わづか 例 僅少・僅々

× **饉** キン ② 食べ物が少ない

↓ 凶作 例 飢饉・荒饉

↓ うえる

× **瑾** キン ①② きめの細かい黄色い宝玉

↓ 瑾 という名の宝石

勤 キン ② きめ細かに心を動かして **力** ヒカ める

↓ おこたらづつとめる

注 惰の反対。

参考 「つとめる」の同訓異字

力 力をつくしてつとめる

努 やれと言われてつとめる

勉 しなければならぬのでつとめる

務 仕事としてつとめる

観 キン △ 諸侯が勤務として、天子や将軍に謁見すること

例 朝覲・参覲交代(江戸時代、大名が一年おきに江戸に出て将軍に謁見する制度)。

・ 参勤交代で代用している

△ 僅かの命しかない木。朝花を咲かせて、その夕方にはしぼんでしまう “むくげ”

の木

例 槿花 一日の榮 (人の榮華のはかないことをたとえて言つ)

槿 キン

△ 僅かの命しかない木。朝花を咲かせて、その夕方にはしぼんでしまう “むくげ”

の木

召
ショウ

刀・口

殿様が『刀』と口にすること。

小姓を“めす”こと。

①呼びつける 例 召喚・召集

②まねく

③小や承の意に仮借される

招
ショウ

①手でおいでおいでしてまねく

↓まねく 例 招待・招聘・招誘

【注】召は目下を呼びつけるのに対し、招はお客様を丁重にまねくこと。

詔
ショウ

①天子が大臣を召して命令を言いつける

↓みことのり 例 詔勅・詔書

【注】古くは単に上から下への“言いつけ”的意であったが、秦の始皇帝以後、天子に限つて用いるようになった。

紹
ショウ

②人を招いて、その人たちを結び合わせる

↓引き合わせ 例 紹介

③引き承けてこれを継いでやる（継承）

↓うけつぐ 例 紹述

②日の光を家中へ招き入れる

↓あかるい 例 昭光・昭代

↓あかるくする 例 顯昭

△火の光が明るい

↓明るくてらす 例 照明

照
ショウ

昭
ショウ

②日の光を家中へ招き入れる

↓あかるい 例 昭光・昭代

↓あかるくする 例 顯昭

△火の光が明るい

石井方式 漢字の覚え方

擢
テキ

② きじの羽の中から特別に美しいものを抜き取る

↓よりぬく 例 抜擢

濯
タク

② 水洗いして衣類を美しくする

↓すぐ 例 洗濯

翟
タク翟
テキ

羽・隹(鳥)

羽の美しい鳥という意味の字。

① きじ(狼の本義)

きじは尾が長くて羽が美しい

② 美しい(羽)

③ きらきら輝く

④ 羽をぱたぱたさせる

超
チョウ① 召に応じてすぐさま走り寄る
物を乗りこえて直行する

•

② 世俗から遠ざかる
③ ずば抜けてすぐれている

↓こえる(乗りこえる)

例 超越

↓こえる(すぐれている)

例 超人・超特急

沼
ショウ

③ 湖水の小さいもの

↓ぬま

↓てらしさせる 例 照合・対照

例 日照・残照

→照合・対照

↓てらしさせる 例 照合・対照

例 日照・残照

石井方式 漢字の覚え方

→ぬきんてる 例 躍秀
 ヤク
 (4) 鳥が羽をばたばたさせるように足を?

→おどらせる 例 躍動・勇躍

→とびあがる 例 飛躍・跳躍

【注】タクの音が変化。tak→yak

曜 ヨウ
 (3) 日の光がきらきらと輝く

→日の光 例 光曜

→輝く 例 曜曜

→天体 例 七曜

【注】ヤクの音が変化。yak→yō

耀 ヨウ
 (3) 火がきらきら輝きながら燃える

𠂔 カン

⑩ 蓼艸 (草) · 口 (口) · 隹 (鳥)

草むらで、鳥がしきりに鳴く。

① しきりに

② 熱心に

【注】音のカンは鳥の鳴き声を表わす。中国の文章には鳥の鳴き声

をカンカンと表現している。

観 カン
 ② 熱心に心をこめて見ること 例 観察・観光

観光のときはとりわけ熱心になるので



→ながめ 例外観・壯観

勸 カン ②人のために熱心に努力する

↓すすめる例 勧誘・勧進

ケン ①枝葉がしきりに繁茂する木

↓雀ケン という名の木（權の本義）

↓勢いが強い例 權勢・權力

カン 鶴カン △カンカンと鳴く鳥

↓こうのとり

カン 灌カン ①水がしきりに音を立てて流れ込む

↓そそぐ 例 灌溉（田畠に水を注ぐ）

↓流し込む 例 灌腸（腸に水を流し込む）

カン **注** 蔷カン はチョロチョロという音を表わす。

歓 カン △雀カン は喜びのあまり出す声を表わす。欠は口を大きく開く形

↓ようこび 例 歡喜・歓声

参考 「ようこび」の同訓異字

歓 わあ～と言つて思わず叫ぶようこび

喜 感情としてのようこび（ようこびの総称）

愉 楽しいことをして得たようこび

悦 心の中でいいなあと感ずるようこび

恰 にこにこせずといられないようこび

欣 あははと声を出して笑うようこび

次のカンを漢字で書け。

問

答 一、観 二、勸 三、歓
四、勸 五、歓 六、觀

一、察 二、誘 三、声 四、業 五、呼 六、光

□

七、□告ハ、壯□九、□心十、□測

答七、勸八、觀九、

噪

品(口)・木

木の上に鳥が集まって口をそろえてさえずっている。

①さわがしい

②あわただしい

注 音のソウは騒(さわがしい)。

×噪 ①わいわいがやがやとさわがしい

↓やかましい 例 喧噪

↓さわぐ 例 蝉鳴

×躁 ①噪と同音同語

↓さわぐ 例 狂躁(狂ったように騒ぐ)

×躁 ①わいわい騒ぎながら歩き回り踊り回る

↓騒ぎ踊る 例 狂躁(狂ったように騒ぎ踊り回る)

燥 ①火をぱちぱちと燃やす

↓かわかす 例 乾燥・高燥

×澡 ①水をぱちやぱちやとさせる

↓あらう 例 澡洗・澡室(ぶろ場)

藻 ②水の中でゆらゆらとあわただしくゆれている草。

↓も(水草) 例 海藻

藻のゆらぐのは美しい

↓詩文の美しい表現 例 文藻・詞藻

操 ② 手をあわただしく動かす

↓あやつる (巧みに) 例 操業・操作

↓行ない (正しい) 例 操行・貞操

繩 ソウ △ 糸を操る

② 糸車をがらがらとあわただしく動かす

↓糸をとる

↓糸をくる (纖維を何本も合わせるため次から次へ繭の糸口を拾つてはぐり込む) 今は、繩り上げる、繩越金などと使う

燥 ソウ ② 心がそわそわとして落ち着かない

監 カン

臣 (目をみはる) • 人 (人) • 皿 (皿に水をたたえる)

皿に満たした水に人が顔をうつして、それを見つめる。

① 水かがみ (監の本義、あとの鑑にあたる)

② 上から見おろす 例 監視

③ 部下を見張る 例 監督

鑑 カン ① 昔のかがみは金属を平らに磨いたものであった

• 金属のかがみ (鏡)

↓ (自分を) みる 例 鑑賞・鑑識・鑑定

↓手本 例 亀鑑・殷鑑

檻 カン ② 囚人を監視するために入れて置く木の?

↓おり 例 檻車・檻送・獸檻

石井方式 漢字の覚え方

↓おりの格子 コウシ

↓橋の手すり 例 欄檻

△ 海上の戦闘のために防禦の檻を備えつけた舟

↓いくさぶね 例 戰艦・軍艦

△ 水かがみの水が外にこぼれ出る

↓あふれる 例 沢 ハシ

↓度が過ぎる 例 濫用・濫造・濫読

【注】よく乱用・乱造・乱読で代用しているが、これでは“乱暴”“でたらめ”になってしまって“度が過ぎる”とはたいへんに違ってしまう。

【注】ランは監の変化、監の音もある。

△ 藍 ラン △ 監 カン という名の草。日本では?

↓あい

【参考】この草を煮とかし煮つめて作った染料の色が“あい色”である。藍汁をさら

うに煮つめると“あお(青)色”的染料ができる。それで『青は藍より出でて、藍よりも青し』といふことわざがある。

弟子のほうが先生よりりっぱになつたことを表わしたことわざである。『出藍のほまれ』とも

言つ。

次のことがばの意味を考えよ。

一、鑑識 二、殷鑑 三、濫読 四、出藍



【答】一、善悪・真偽・優劣などを見分けること。二、殷鑑遠からずうんぬ

んは、詩経大雅にある湯王の言。殷の艦(手本)はすぐ近い所(前代の夏)にある。つまり、夏の桀王(ケツ)が暴政によって滅びたことを忘れてはならないという意。夏は湯王によって滅ぼされた。三、度の過ぎた読書、読み過ぎ。四、「参考」参照。

褒

ジョウ

①

上衣をぬいで、口口にわいわい言いながら畠仕事をする形

・

② 仕事の能率が上がる

・

③ 上の仮借

ジョウ

①③ 酒がぶつぶつ言って、あわが上がる状態

・

↓かもす (発酵) 例 酿成・釀酒

ジョウ

① わいわいぶつぶつ言いたいことをじゅうぶんに言うと、自然と相手の立場もわかれ、自分の立場も相手にわかつてもうえる。そこでお互いにゆずる気持ちが自然とわく

・

↓ゆずる 例 謙讓

ジョウ

↓ゆずる 例 謙讓

ジョウ

注

酒がじゅうぶんにぶつぶつ言って、それがやんだとき、りっぱな酒ができる上がる。そのように、主張すべきは主張してこそ真の理解のうえに立った和合ができる。謙讓は“ゆずる”意味ではあるが、“ぶつぶつ”という字でできていることは、なんと意味の深いことではないか。謙讓とは、ただ人の言つなりに従うことではないのだ。

× 稲 ② 稲を作る仕事の能率が上がる

ジョウ

↓豊かにみのる 例 五穀豊穣

ジョウ

嬢 豊かにみのった女 (むすめ)

ジョウ

↓りっぱに一人前に完成した婦人

ジョウ

注 良い女という意味の“嬢”と同音同義であるが、今は、嬢は“むすめ”、嬢は“お嬢さん”というように使い分けている。

壤 ジョウ

① 畑仕事をするのに適した土

↓よい土 例 土壤

↓大地 例 天壤無窮

注 土壤は単に“づち”という意味のことばではない。“万物の母なる大地”という意味のことばである。

穀物を作り育てる土

攘 ジョウ

△ 口口に言い合う意の裏と手との会意・形声字。相手の意見を口でしりぞけるだけでなく、手まで使うこと

↓手ではらいのける 例 尊皇攘夷 イ（皇室を尊び、夷 えびす「外国人」を追い払うという意味で、幕末に口にされたことば）

戈 サイ才 サイ（切の仮借）・戈 ほこ

武器をもつて物を断ち切る。

① 断ち切る

裁 サイ
① 衣類を作るべく布を断ち切る

↓裁断

注 デザインから裁断までのうちは変更 がきくが、いつたん裁断したらもう変更はきかない。やえに、裁断といふことばは次の意味をもつ。

↓最終的な決着をつける 例 裁判・裁定・決裁

裁 サイ
① 木をりっぱに育てるためには、まだな枝を断ち切らなければならぬ

木を断ち切るとかけて、何と解く?
↓木を育てる 例 栽培・盆栽

石井方式 漢字の覚え方

哉

ヨク

×哉

サイ

哉

カイ

×哉

サイ

↓木を植える 例 移裁・新裁

• 移裁

• 新裁

↓終助詞 例 快哉・豊有他哉

快哉

カイサイ

• 快哉

• 豊有他哉

豊有他哉

カイサイ

• 豊有他哉

終助詞 例 快哉・豊有他哉

カイサイ

• 快哉

• 豊有他哉

×戴 ① 断ち切って、切り離した物（異）を次々と？

戴

サイ

×戴

サイ

△ 戴（上にのせる）の意味。車の上に？

戴

サイ

×戴

サイ

× 截 ① とらえた鳥（隹）を焼き鳥にすべく

截

セツ

× 截

セツ

截

セツ

↓ 断ち切る 例 截断・直截

截

セツ

× 截

セツ

截

セツ

× 截

セツ

△ 截（上にのせる）の意味。車の上に？

截

セツ

△ 截

セツ

答 一、サイティ・物事の是非・善悪を判断し決定すること。二、イサイ

イ・植物を別の土地に移し植えること。三、スイタイ・上に推し戴くこと。四、テンサイ・ある記事をそのまま別の書物に掲載すること。五、セツダン・断ち切ること。

職 ショク

② 耳で物事をはつきりと聞き分ける

↓ 民の声を聞くことは

↓ 役人の最もたいせつな仕事（職の本義）

↓ 仕事 例 職業・就職

シキ

② 言（ことば）の持つ意味を明瞭に区別する

シキ

② 言（ことば）の持つ意味を明瞭に区別する

↓ ことばの理解（識の本義）

↓ 物事を見分ける 例 認識・識見

↓ しるし（哉の意） 例 標識

↓ 注 音は言と哉でショク、吳音はシキ。

シキ
ショク

① 糸にしるしをつけるのは何のため？

シキ

↓ 布をおる 例 紡織・染織 ボウショク センショク

↓ 組み立てる 例 組織 ソシキ

はたを織るには手順と準備がいる

↓ のぼり 例 旗幟（旗じるし） キン

シ ① しるしの書いてある布（巾）とは？

シ
幟

① しるしの書いてある布（巾）とは？

↓ のぼり 例 旗幟（旗じるし） キン

シ
熾 ① ② 火が明るく燃える。火の勢いは？

↓ さかん 例 煙烈（盛んで烈しい） ハゲ

ヤ ヨク

土地の境界線を明示するために立てられた“木の枝”の象形。

① 目じるし（標識）

× 杖 (ヨク) ① 目じるしのために立てた木。

↓くい

代 (タイ) ① かわりだというしるしを持つた人。

↓かわり 例 代理・代筆

↓かわる 例 更代・代納

注 代理人はその証拠となるしを持つたなければ、その資格を失う。たいせつなものである。ゆえに、やど人とこれを表わした

注 音は替 (かわる)。ダイは異音。

↓世 例 世代・現代・時代

注 親の世から子の世へと世はかわるので。

貸 (タイ) △ 次の世代におくる財産 (見)

↓遺産 (貸の本義)

↓ただで与える

注 一時的にただで与える。

↓かす 例 貸与・賃貸・貸出 (タイシユツ)

かだん

注 貸 (もうう) は、貸と全く同じ構造の字であるが、貸は親の立場から、貰は子の立場から意味を取ったので、意味が正反対になつて いるのはおもしろい。

△ まゆ毛をそって、代りに黒くえがくものは?

↓まゆずみ 例 粉黛・紅黛・翠黛 (スイ)

袋 (タイ) △ 着物 (衣) の代りにからだを包む布

↓衣の代用品 (袋の本義)

↓からだを包むもの 例 手袋・足袋 (てぶくろ たび)

石井方式 漢字の覚え方

坊 ボウ
② 家の四方に土塀をめぐらした建物

防 ボウ
② 四方を土手(阤)で囲むのは、村や町を外敵に對して?

↓ふせぐ例 防壁・防衛

↓寺院

↓僧 例 僧坊・坊舎
① 僧の住むところ 例 僧坊・坊舎

↓髪の毛を短く刈つた者 例 坊や・赤ん坊

注 中国の都市は四方に防壁をめぐらしている。これが防の本義である。

方 ホウ

耕作に用いる“すき”の象形字。

すきは、生活に最も必要な手立てであつた。

式 ① 工作をするときの目じるし
・

↓ひながた(手本) 例 形式・格式

↓一定のきまり 例 正式・儀式

注 シキは呉音、漢音はショク。

↓物を包むもの 例 紙袋
昔は今のように裁縫用具が発達していなかつたので、ふだん着などは、布をただからだに巻きつけるだけで済ませていた。これが袋である。



妨 **ボウ** ② 四方を女に囲まれては、仕事が手につかない

↓さまたげる 例 妨害

紡 **ボウ** ② 四方に糸巻きを置き、それを一本の糸により上げる

↓つむぐ 例 紡織・紡績・混紡

肪 **ボウ** ② 肉のまわり（方）の肉は？

↓あぶら肉（皮下脂肪）

【注】脂は“旨い肉”という意味の字。あぶらののった肥えた肉はおいしい。

彷 **ボウ** ② 行く方角を定めずに、四方のどちらでもかまわずに行く

（あっちへ行ったり、そっちへ行ったり）

↓さまよう 例 徒歩

- 45 -

↓ぼんやり 例 徒歩

芳 **ボウ** ② あたり一面（四方）草花におおわれている

↓かぐわしい 例 芳香・芳草・芳園

↓美しい 例 芳景・芳心

↓敬称 例 芳志・芳顔・芳名

訪 **ボウ** ② あっちへ行き、そっちへ行きしてたずねる（言）

↓たずねる 例 訪問・歴訪

放 **ボウ** △ 古い形は放で、人と女との会意字

↓人を追い払う 例 追放

【注】音は女が変化してボウ。そのため、人が方と書かれるようになった。

↓自由に任す 例 放任・放言

石井方式 漢字の覚え方

↓わがまま 例 放縱・放漫
↓わがまま 例 放縱・放漫
問 次の芳の違いを述べよ。

一、芳園 二、芳志 三、芳心

次の放の違いを述べよ。

四、釈放 五、放逐 六、放漫

答 一、かぐわしい花園。二、あなたの
お志。三、美しい心。四、自由に任す。
五、追い払う。六、気まま。

富

りつばな酒を入れる容器。

匱

これがある家は豊かな財産家。

富

① 財産のある家

富

② 豊か

① 財産

↓とむ 例 富裕・富貴

↓豊か 例 豊富・富饒

福

① 神の授ける財産

↓さいわい 例 幸福・福運・福利

注 目に見える物質的な財産が富、目に見えない精神的な富が福である。

副

① 財産を二つに分ける

↓半分をひかえに取つて置く

↓ひかえ 例 副本・副将

↓補助 例 副読本

注 正副は同じ二つのもので、その一つを正とし、他を副とするのが本義である。今では、優劣のある劣つたほうが副であり、補助の意に用いられることが多い。

幅 ^{フク} ② 豊かな布・

↓たっぷりはある布（幅の本義）

↓はば 例 走り幅とび・幅員

幅 ^{フク} ② 豊かな車（ぜいたくに作られた車）

↓やのある車輪（幅の本義）

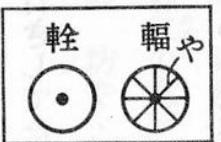
↓や 例 車輪

↓集まる 例 輻輳

↓放射する 例 輻射

注 木を輪切りしたような車輪を軽 ^{セン} と/orい、放射状の棒（や）のあ
るぜいたくなのが幅である。

問 次の副および幅の違いを述べよ。



一、副本と副読本 二、輻輳と輻射

复 ^{フク}

亞は二つ重ねたような形をした酒器で
臺ある。又は、と（止）をさかさにした形。
足（歩く）の意がある。

① 重ねる（重なる）

② 重ねて行く（ふたたび）

③ 行ったり来たりする

複 ^{フク} ① 布を重ねて作った着物（衣）

↓合わせ（表地と裏地と合わせて仕立てられた着物のこと 複の本義）

↓重なり合う（こみ合う） 例 重複・複雜

腹 フク ① 肉体の中で、多くの器官の重なり合ったところ

↓はら 例 空腹・満腹

心 ハル (または度量) 例 腹案・腹心

復 フク ② 一度適った道を重ねて通る

↓かえる 例 往復・復帰

↓元にもどる (もどす) 例 回復・復古

↓くり返す 例 反復・復習

注 帰は出発した所にかえること。復は行きの道を通つて出発点にかえること。

馥 フク ③ よい香 (かおり) が行つたり来たりする

↓かおる (におう) 例 芳馥・馥郁 イフ

覆 フク ③ おおい (田) を取つたり着けたりする

↓おおい 例 覆蓋・覆面 フクガイ フクメン

↓ひっくりかえす 例 顛覆 テンブク

注

おおいといふものは着けたりはずしたりするものである。それで復と言つ

問 次のフクを漢字で書け。一、□ 二、□ 習 三、□ 案 四、□ 雜 五、□ 面

胎児が母親の腹の中に包まれている形。

包 ホウ **ホウ**

抱 ホウ ① 手でつづむ

↓だく (かかえる) 例 抱擁・介抱

複	答
五	一、馥
覆	二、
三	復
腹	三、腹
四	四、
面	

注

抱負は手に抱き、背に負う意だが、"心にいだく望み" の意に用いる。

↓心にいだく 例 懐抱・大志を抱け

飽ホウ
② 食べ物で腹が大きくなる

↓腹いっぱい 例 飽満・飽食

↓あきる 例 飽聞 (あきるほど聞く)

砲ホウ
① 石を包んで、それをはじきとばす兵器

↓石弓じしゆみ (これが昔の最大の兵器)

↓大砲 (今の大砲は鉄の弾丸をとばすが、字は昔のままの石である)

× 鞠ホウ
① 物を包むための革かわ製の物入れ

↓かばん (国字)

胞ホウ
① 胎児を包んでいる肉体の部分

石井方式 漢字の覚え方

↓えな 例 同胞 (胞を同じくする意で、同じ母親から生まれた兄弟姉妹)

注 生殖の働きを持つものにこの字をいる。

例 胞子・細胞

× 泡ホウ
① 空気を水で包んでいるもの

↓あわ 例 水泡・泡沫 (水の末—しぶき)

↓消えやすいもの 例 泡雪

× 疱ホウ
① 食べ物を包み置く所 (广)

↓料理場 (台所)

↓料理人

× 疱ホウ
① 泡つぶのようなはれ物のできる病氣

↓もがさ (疱瘡)

注 今は天然痘と言つ。痘は豆つぶのよつなはれ物のできる病氣という意味。

石井方式 漢字の覚え方

×袍 ホウ ① 中に綿を包んである着物
↓綿入れ (冬の防寒用衣類)

×鉋 ホウ ① 中に金を包んである大工道具
↓かんな (刃が木の台の中にはめ込まれている)

問 次のホウを漢字で書き、意味を考えよ。

一、□腹 二、□撃 三、芽□ 四、□食 五、□丁

者 シャ

● ① もの

② ひどい

③ たくさん (多い)

容器からはみ出るほど、"ものがひどくたくさんある"ことを表わした字。

④ 初の仮借

音 シャ→ショ→チヨ→ト
sha syo tyo to

煮 シャ ② 火をひどく燃やすのは何のため?

↓にる 例 煮沸 (沸は湯をわかす)

×奢 シャ ② ひどく大きい顔をする

↓いばる 例 駕奢・奢傲 キョウサンシャ

↓おごる 例 奢恣・豪奢 シ

暑 ショ ② 日がひどく照りつける
↓あつい 例 酷暑・避暑・残暑

【反対】 寒い 【注意】 熱い→冷たい

答 一、抱腹・(腹をかかえて笑う) 二、砲撃・(砲弾を打ち込んで敵を攻撃する) 三、胞胞・(胞子のこと) 四、飽食・(腹いっぱい食べる) 五、庖丁・(中国の名料理人の名。また料理に使う刃物)

諸 ショ ②③ ひどく言 (いとば) が多い (本義)

↓多い (多くの) 例 諸侯・諸君

(もろもろ) 例 諸国

著 チヨ ② ひどく草が茂る (本義)

↓ひどい (いちじるしい) 例 顯著・著明

↓目だつ (あらわれる) 例 著名

↓あらわす 例 著述・著書

署 ショ ③ 綱 (田) のように配置を密にする

↓手分けする 例 部署

↓役所 例 警察署・税務署

注 田は網で、網の象形。仕事を細かく手分けして、網の目を張ったように、取り

薯 ショ ② ③ ひどく根を張り、多くの実をつける植物



こぼしのないように処理する意味の字。警察・税務署など、打つてつけの使い方である。

注 甘諸 (甘薯) はあまいもの意で、さつまいもなどいいうのは、わが国の原産地が

薩摩の国 (鹿児島県) であったため。

緒 ショ ④ 糸の初め

↓いとぐち (糸口) 例 端緒

↓初め 例 緒言・緒論・情緒 (喜怒哀樂の糸口といふ意)

注 音は初であるが、チヨと慣用読みされる。

× 濁 ショ ④ 陸地から水にうつる初めのところ
↓ なぎさ

× 曙 ショ ④ 日の出初め
↓ なぎさ

↓ あけぼの 例 曙光

注 暗黒を破つて光明に満ちた世界になる前ぶれであるから、良いことの起つる前兆の意に用いられる。

都 ト ②③ 多くの邑 まち (邑) を含んだ大きな町
↓ みやこ (その国の主權者の住む町)

都 ト 多くの邑 まち (邑) を含んだ大きな町
↓ 大きな町 例 都市・都会

× 猪 チヨ ③ 多くの食肉の取れる獸類 (猪とも書く)

↓ いの子 (いのこ) 例 野猪 (いのし)

注 猪突猛進 (猪) がまっすぐに寛つ走るように、向こう見ずなことをいつ

× 箸 チヨ ① 容器に盛られたものをつまむ竹のはさみ

↓ 竹ばし

注 昔の箸は一本の竹をピンセットのように折り曲げ、両端で物をはさんだ。その様子は鳥がえさをつまむ口ばしに似ているので

“ばし”の名がある。昔は、口ばしを単に“ばし”と言つた。

問 次のことばを漢字で書け。

一、あけぼの 二、いとぐち 三、なぎさ 四、もうもう 五、いちじるしい

答 略



昔の箸

石井方式 漢字の覚え方

① 方角 (東から少し南にかたよった方角)

② 時例 辰刻 (時刻の意)

③ 日例 良辰 (良い日の意)

④ 天体例 星辰

⑤ 神の仮借

× 晨 ① 日が辰の方角にあるころ

↓ あさ (あした) 例 早晨・晨夜

震 ⑤ 雨を降らす神

↓ かみなり (雷)

↓ 雷鳴のとどろき (ふるふえ) 例 震動 (雷鳴に伴う空気のふるえが本義。地震の

多いわが国では地震のふるえに使つ。中国の地震は、雷の地をふるわせる)ことを

いう

注 神は雷が本義。雷は^{キラキラ}で、雷の^バる^バる鳴る様と雷光を表わしたもの。神の申は^シで雷光を表わしており、電の^シと同じ意。かみなりは神鳴りで、鳴る神とも言われる。

振 ④ 手をざぶざぶるとざぶるわせる

↓ ふるわせる 例 振動

↓ ふるう 例 振興・振武・不振

↓ ふる 例 振鈴・三振

× 脣 ④ 手をざぶざぶるとざぶるわせる)とのできる肉体の部分

↓ くちびる 例 紅脣

唇 シン △ 口をぶるぶるぶるわせる

↓驚いて声を出す（本義）

↓くちびる（脣の代用）

娠 シン △ 女のからだがぶるぶるぶるえる

↓胎児が動く（本義）

↓はらむ 例 妊娠

賑 シン △ お金が盛んに動く

↓景気がよい（本義）

↓にぎわう 例 殷賑

↓にぎわす 例 賑恤 イン
・賑救

【注】貧困な人々に金品を与えることを“にぎわす（賑）”と言つ。

答 一、娠 二、賑
三、屑 四、振 五、
六、晨 振

石井方式 漢字の覚え方

果 カ

木にくだものになつている形。

○木 種→芽→木→花→実（最後）

①くだもの（果実）

②はて（最後）

③はたす（仕上げる）

【注】結果は“実（果実）”を結ぶ意で、原因があつて引き起こされる事がらを言うのに使われる。この原因と結果との関係を“因果”と言つ。

【問】次のシンを漢字で書け。

一、妊 シン □ 二、殷 シン □ 三、紅 シン □ 四、□動 シン □ 五、□興 シン □ 六、□夜 シン

菓 ① 果が本義（くだもの）以外の用法（はたす）に使われるようになり、くだもの専用に作った字。#は植物の意

↓くだもの 例 水菓子

↓お菓子 例 茶菓・製菓

注 菓子は元来くだものの称だが、今はケーキの称。水菓子という呼び方だけが、本来の意味を伝えている。

課 ③ 仕事を果たすように言いつける

↓わりあてる 例 課題・課税・日課

↓仕事の区分 例 会計課・課目

夥 ① くだものが多く木になつていて

↓おびただしい 例 多夥

顆 ① 頭のように丸い果実

↓つぶ (丸い形) 例 顆粒

踝 ① 足の中で果実のように丸くふくらんだ部分

↓くるぶし

裹 ① 果実を衣（着物）の中につつむ

↓つづむ 例 裹足・裹頭

注 衣の中に果を入れた字で、裏（うら）と混同しやすいので注意。

裸 ① つつまれた果（裏）が外に出ている形

↓むき出し 例 裸出

↓はだか 例 裸体・赤裸

注 果の音が変化してう。

例 格 絡 樂 樂 京 涼

カク ラク ガク ラク キョウ リョウ

未

木

① 未熟

② まだ……ない

まだ “果” ほどには大きくならない “未熟” なくだもの形。

味 ① 未熟な果実を “まだ食べられないかな” と待ち遠しく思つて食べてみる

↓あじをみる (味わう)

↓あじ 例 味覚・珍味

妹 ① きょうだいの中で未熟な女

↓いもうと 例 姉妹

【注】 未妹 (milk—mile)

昧 ①② 日がまだ上らない、 (日が未熟)

↓夜あけ→ぐらり 例 明旦

石井方式 漢字の覚え方

▲は帽子の象形。帽子を田のところまで深くかぶることを表わした字。

冒 ボウ

① かぶる (冒の本義)

② こうどる 例 寒冒・感冒

③ おかす 例 冒瀆・冒險

帽 ボウ

① 頭にかぶる布

曼 マン

冒と又の会意形声字。帽子を目深くかぶった人の手を取り “手を引いてやる” ことを表わした字。

① 引っぱる

② 長くのびる

③ 広がる

↓かぶりもの 例 帽子

注 曼の音は冒の変化したバン、吳音はマン。吳音がもっぱら用いられる。

マン
・
蔓 (2) 草の長くのびる部分

↓つる

↓はびこる 例 蔓延 (蔓が延びるの意だが、 “病気が蔓延する” など “ばびこる” 意に用いる)

蔓 マン
・
(2) 長くのびた魚

↓うなぎ

饅 マン
・
(2) ふくらし粉で大きく引きのばされた食べ物

↓饅頭 (頭は顆と同じ意)

幔 マン
・
(2) 長く引きめぐらした布

↓まく 例 幕幕

漫 マン ③ 水が広々と広がっている

↓果てがない (あてもなく心のむかむかままに任せられる意に用いる) 例 漫遊・漫

歩・漫筆・漫談・漫画

慢 マン ③ 心が果てもなく大きく広がる

↓おざりたかぶる 例 駒慢・自慢 キヨウ

↓しまりがない 例 怠慢・放漫

【注】慢性という用法は、慢性の意で、長引く性質をいう。

【問】次のマンを漢字で書きなさい。

一、□延 二、□遊 三、□幕 四、□心

答 一、蔓 二、漫 三、慢

非 ヒ

鳥の両翼を広げた象形。

非 翼は左右反対向きについている。

① 反対

② 否定 (……でない)

③ 悪い

【注】音は背ハイ (ヒ = 反対)、またはヒ。

high → hill

扉 ヒ
① 左右反対に開く戸

↓両開きの戸 (本義)

↓とびら 例 開扉・自動扉

排 ハイ
① 反対側に手で押しゃる

石井方式 漢字の覚え方

↓押しのける 例 排斥・排除
↓外に出す 例 排泄・排水

注 バレー・ボールを排球と訳している。

×**誹** ③ 相手を悪く言つ

↓そしる 例 誹謗

俳 ② 非人（人でなし）

↓乞食（食べ物を乞い歩くの意）

↓俳優（昔は川原乞食と言つた）

参考

“俳徊”は、乞食のように、あてもなく歩き回るという意だが、

今は“ざざろ歩き”的意に用いられ、字も“徘徊”という字に書かれる。俳は、わが国では“俳諧”的意で、“俳句・俳人・俳画”などと使われる。



✗**霏** ② 雨でない雨

↓霧や靄の類（雨らしくない雨）

↓雨の飛ぶ様（非＝飛） 例 霏々と降る

✗**匪** ② 箱（匁）でない箱（箱らしくない箱）

↓円形のはこ（ふつう箱と言えば四角なので、箱らしくない訳）

輩 ④ △車が押し合つ（排）ようにぎっしりとつまつて並んでいる

↓多くの車（本義）

↓多くの人（特に仲間の人に使う） 例 先輩・後輩・同輩

✗**斐** ④ △模様（文）がぎっしりと並べられている

↓模様

↓美しい 例 斐然・斐然たる君子

悲 ① 心の中でこうありたいと願つ

ていることと反対の結果になつてしまつたので?

↓かなしい 例 悲劇・悲運

↓かなしむ 例 悲痛・悲憤

↓あわれむ 例 慈悲・大悲

×**俳** ① 心の中で思つてゐることが、

思うように言えないので?

↓いだつ 例 俳憤

菲 ② 草でない草(雑草でない、食

べられる草)

答 悲憤の憤は憤慨の意で、悲しみいきどおるこ

と。俳は心の中を思うように言い表わせないでいらすこと、憤は思うことが心に溢れるほどあつていらだつこと。論語に、「憤せんば啓せず、俳せんば發せず」とある。孔子が弟子たちを教えるのに、弟子たちの学習がそこまで達しないちは教えなかつたのである。ここから“啓發”とい

うことばが使われるようになつた。諸君も問題に對してよく考え、わかつてはいるのだがうまく言えないとはじめて回答を見たり、教わつたりするという態度が必要である。

↓野菜 (本義)
↓薄い (粗末) 例 菲才・菲薄

注 野菜だけの食事では粗末である。

腓 ① 脛の反対側の筋肉

↓ひづらはぎ

〔問〕 悲憤と俳憤との違いを述べよ。

古い形は“否”と同じ。“否”は“背”と同義。

音 ヒ

① 反対
② そむく

音 hiまたは ヒ

倍 バイ
② 人にそむく

↓対立する (本義)

(一つのものが二派に分かれる)

↓一が二になること 例 増

剖 ボウ
△ 一つのものが二つになるように切り分けること

↓さく 例 解剖

培 バイ
△ ふえる (倍増) ように草木に肥えた土を加え、草木を育てる

△ 二つ並んだ崖がけや山 (本義)

陪 バイ
△ 二つ並んだ崖がけや山 (本義)

△ 一つが他につき従う 例 陪席・陪食

賠 バイ
△ お金を二倍にして償うこと。相手に損害を与えた場合、その代償として二倍の金

額を支払う

↓つぐなう 例 賠償

責 セキ
主は束を簡単にした形。束は、木にとげの形を表わした「を加えた字。とげのある木。"とげで刺す" "せめる" 意に用いる。

① せめる (当然なすべきことを求める)

② 義務 (当然なすべきことを行なう) 例 責任・責務・職責

積 セキ
② 責任として納入すべき稻

↓祖税 (本義)

↓つむ (租 (且の項参照) の本義が "稻をつむ" ことで税の義に用いられ、逆に

“税”が本義の積が“つむ”の義に用いられるのはまことに興味のあることである

る)

↓かさ 例 容積・体積

績 セキ
① 糸をとるのに当然なすべき仕事

↓つむぐ 例 紡績

↓仕事 成績・功績

【注】纖維をより合わせて一本の糸にする仕事、これで麻でも羊毛でも糸になる。錨 ツム
という重りを用いるので“つむぐ”と言つ。

積 セキ
△ 石が積み重なつてゐる所

↓かわら (川原)

漬 シ
① 水で責める (水責め)

① 窓を開けはなつ（本義）

日光や新鮮な空気を家に入れるなどを→

② こいねがう 例 好尚

③ たつとぶ 例 尚武・尚古

④ 上の仮借 ショウ

掌 ショウ
④ 手の上の物をのせるところ

↓たなごころ（手の平）

↓手にする 例 掌握

↓仕事 例 車掌・分掌

例 熊掌 ユウザンショウ

賞 ショウ
④ 上からほうびとして賜わる財貨

↓たまもの 例 賞与・賞金

- 64 -

↓ほめる 例 賞賛・賞美・嘆賞

償 ショウ
△ 人の働きに対し贈る賞（働きに対する代価）

↓つぐない 例 代償・弁償・償却

× 裳 ショウ
④ 衣の上に着るもの

↓も（衣がブラウスにあたり、裳はスカートにあたる。これで一組みになるのでも）

“衣裳”と読む

常 ジョウ
④ 中は衣の意の布。裳と同じく、腰に巻きつける布、スカートの類

↓ふだん着（常服）一（本義）

↓つね（ふだん） 例 通常・日常

↓つね（きまり） 例 常例・常規

↓つね（なみ） 例 常識・凡常

堂 ^{トウ} ④ 土を高く盛つて、その上に建てたりっぱな建物

↓りっぱな建物 例 本堂・講堂・殿堂

↓りっぱ 例 威風堂々

注 音は shō→tyō→tō

↓ ↓

zyō dō

× 瞠 ^{トウ} △りっぱな建物(堂)に目をみはる

↓目をみはる 例 瞠目・瞠若

党 ^{トウ} △本字は儻。ルもイも同じ意の部首。尚・黨との形声字。五家を比、五比を閭、

五閭を族、五族を党と言つ。大きな集落の称。今は“人の集まり”“仲間”的意に

用いる 例 政党・徒党

問 次のショウを漢字で書きなさい。

一、職 ^{シヨウ} □ 二、恩 ^{シヨウ} □ 三、衣 ^{シヨウ} □ 四、弁 ^{シヨウ} □

ショウ

少 = 小・月 = 肉 子は親より肉体が小さいだけで、顔形から話しかけ、癖までよく似ている。

① 似る(特に子が親に似ることを言つ) 例 不肖(親に似ない愚か者の意)

② 小(少)の仮借

注 音は 小。

× 霽 ^{ショウ} ① 雨に似たもの

↓みぞれ(雪まじりの雨)

× 鞘 ^{ショウ} ① 刀身に似せて作った革のおおい

答
一、掌 二、賞
三、裳 四、償

↓刀のさや（古くは革で作つたが、のちには木になつた）
消 ショウ
 ② 水が少なくなる

↓へる 例 消耗・消磨
 ↓なくなる (きこえる) 例 消滅・消化

↓けす 例 消火・消防

△ 水につけると溶けて消える石
硝 ショウ

↓消石 (硝石)

梢 ショウ
 ② 木の小さい部分

↓こずえ (木の先端)

逍 ショウ
 ② 小道を歩く

↓さまよう 例 逍遙 (気ままに歩く)

答 一、二、四、略 三、
 未も梢もこずえ (木
 未)。末端の意で、本
 質的でないもの、価値
 のないものを言つ。
 五、徹夜と同じ意。夜
 どおし。

宵 ショウ
 ① 家の中の人気が皆似て見える（暗いので）

↓よい (夜・夕が自然現象としてのよるを表わしているのに対し、宵は人間生
 活の感情が込められたよるである)

問 次のことばの読みと意味を説明しなさい。

一、一宵 二、消耗 三、末梢 四、逍遙 五、徹宵

ヰ (ヰ) は止の反対。足の裏の象形。これを逆にしたのがヰ (ヰ)。足の方向
 が逆だから→

① すれちがう (本義)

② 行つたり来たりする

③ ちがう

韋 イ

石井方式 漢字の覚え方

違 イ
① 道をすれちがう (本義)

↓ちがう 例 違算・違約・相違

偉 イ
③ ふつうの人とはちがつた人

↓えらい 例 偉人・偉大・偉業

緯 イ
② 行つたり来たりする糸

↓横糸 (はたを織るとき、縦糸「経」に対して緯が往復して布を織り上げる)

衛 エイ
② 道 (行 || 午) を行つたり来たりする

↓パトロール (本義)

↓まもる (警戒) 例 警衛・衛兵・護衛

圍 イ
② 方々からやつて来て取りこむ (口)

↓かこむ (今の字は囲) 例 包囲・周囲

奇 キ

大・可 (よろしい)

大いによろしい。

① めずらしい 例 珍奇・奇計

② 一つ (ただそれだけ) 例 奇数

③ 不思議 例 奇術・奇跡

④ あやしむ 例 奇怪

【注】 音は可が変化してキ。 カ→キ。

崎 キ
① 珍しい山 (海の中に突き出た、ゴツゴツした岩の多い変化に富んだ山)

→みさき (ふつう岬と書き、この字は山崎・長崎など、熟語として用いられ、 ザ キ と読まれることが多い)

崎 キ
① 珍しい土地 (変化に富んだ景勝の地)

石井方式 漢字の覚え方

抗 コウ

① 手をあげて、ふせぎこばむ

↓こばむ 例 抗命

〔注〕 音は高コウ。

④ たかぶる (高ぶる) 例 亢奮

③ さからう (逆らう)

② ふせぐ (防ぐ)

④ たかぶる (高ぶる) 例 亢奮

亢 コウ

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

亢

両足を、ぶんぱり、両手をひろげて通せんぱをして いる形。

〔問〕

次のことをばの説明をしなさい。

一、経緯

二、綺羅星

寄 キ

△ 家に身を倚せる

↓椅子 (いす)

倚 イ

△ 倚りかかるための木製の道具

↓身をよせる

〔例〕 寄宿

↓よせる (よる)

〔例〕 寄稿・寄港

×綺 キ

① 珍しい系 (あや模様のある絹糸)

↓きれい 例 綺麗 (綺のごとく美麗の意)

×綺 キ

① 珍しい系 (あや模様のある絹糸)

↓崎と同じく やき と読まる

答 一、縦糸と横糸。これで布ができる。事の次第、いきさつに意味に用いられる。二、羅は薄く透き通った絹、綺も羅もともに美しいの意で、大空に輝くたかさんの美しい星のことから、えらい人の多く集まっていることにたとえられる。

石井方式 漢字の覚え方

僚
りょう

↓役人 例 官僚

寮
りょう

① 日中のように明るく火を焚く家。

燎
りょう① 火を赤々と燃やす
↓かがり火 例 燎火

↓野火 例 野燎

① 火を焚く

② 明るくする

火を焚いて、日中のように明るくする。

寮
りょう

= 木・火・日

杭
コウ

① 高く突き出た木

↓棒くい

坑
コウ

③ 困難に逆らって地中にあなを掘り進める

↓地中に深く掘りあけた穴（石炭や鉱石を採掘するための穴）

例 炭坑・金坑・

航
コウ

③ 川の流れ、潮の流れに逆らって舟を進める

↓舟を進める 例 航海・航路・渡航

↓乗り物を進める 例 航空・寄航

↓張り合う 例 抵抗・反抗・抗争

× 瞭 リョウ ② 目が明るい

↓はつきりと見える 例 明瞭

療 リョウ ② 病気の原因を明瞭にして原因を取り除く

↓病気をなおす 例 治療・療養

【問】 次のことばの意味を説きなさい。

一、同僚 二、一目瞭然

答 一、同じ役所の仲間の

意。今では広く同じ職場に
働く仲間を言つ。二、ちょ

と見ただけではつきり
とわかること。

化 カ

① 人が死ぬ (本義)

② ばける (ばかす) 例 化け物・妖怪変化 ヨウカイヘンゲ

③ かわる (化合・消化など、本質からかわる、麥 よりも大きなかわり方に用

ヒには もと と 二つの形があるが、化は後者である。人が倒れている形。

いる

花 カ
② 草のおばけ (変化)

はな

靴 カ
② 革のおばけ

かわ

くつ

訛 カ
② 人をばかす言 (ことば)

↓あざむく (本義)

↓正しくないことば

↓なまり (方言)

× 化 カ
② 鳥や獸をだましてとらえる仕掛け (□)

↓おとり (とらえた鳥を使って、野鳥を油断させてとらえる)

貨 カ ③ お金 (貝) にかわるもの

↓お金にあたる品物 例 貨物

↓お金 例 貨幣・金賃・硬貨

加 カ

腕力と暴言の意のカと口。

腕力をふるううえに暴言をくわえる。暴言のうえに腕力をふるう。

① くわえる

② 上にのせる 例 加冠

架 カ ② 物を上にのせるための木の台

↓たな 例 書架

↓かける 例 架設・架橋・架空

賀 カ ① お祝いのことばのうえに加える祝儀のお金 ショウギ •

↓財貨を贈つて祝う (本義)

↓いわう 例 祝賀・賀状・慶賀

駕 ガ ① 馬を加えた車 (乗り物)

↓馬車 (本義)

↓乗り物 例 車駕・輿駕 ヨガ

↓乗る 例 駕行

跡 カ ① 足の上に足を加えてする

↓あぐら 例 結跏趺坐 ケツカツザ

嘉 カ ① 食物をすすめたうえにその人をほめる

石井方式 漢字の覚え方

↓ほめる 例 嘉賞

↓よい 例 嘉言・嘉宥

問 次のことばの意味を解きなさい。

一、架空 二、訛言 三、嘉節

高	凸
カ	カ

頭蓋骨の象形。(骨は、これに筋

肉の付随したものと言つ)

頭蓋骨に口を加えた形。

① まるい

② めぐる

渦 ② 水中のうずまきめぐつて いる所

↓うず 例 渦中 (うずまきの中の意で、もめごと・ざいたを言つ)

× 蝸 ② うずまきの形をした殻を背負つた虫。

↓かたつむり (蜗牛とも書く)

× 壙 ① 金属をとかすのに用いる土製のまるい器具

↓るつぼ

× 鍋 ① 食物を煮るのに用いる金属製のまるい器具

↓なべ

過 ② ぐるぐるとめぐり行く

↓すぎる 例 経過・過程・通過

↓程度を越える 例 過激 (激しそうる)

↓あやまつ 例 過失・過誤・罪過

答 一、空中にたなをかけ渡すことはできないよ

うに、事実ありえないことや想像を言つ。

二、

事実をいつわったことば『流言』の意味と、地

方のなまりことばと二つの使い方がある。三、

酒食をととのえてお祝いするようなめでたい日を言つ。『嘉辰』ともいう。

禍 カ ②・神の与える罪過、めぐり合わせ

↓わざわい 例 災禍・禍乱

商 テキ

啻の変形したもの。帝（皇帝）はただひとりの存在であるから↓
①ただひとつ

②的（まと）の仮借

滴 テキ
①ただひとしづくの水

↓しづく 例 水滴

【注】音のテキはしづくのしたたる音をも表わしている。

①ただひとりの女・

↓本妻（正妻） 例 嫡妻・嫡配

嫡 テキ

↓あとつぎ（正妻の子） 例 嫡子・嫡男

【注】テキは漢音 チャクは吳音。

摘 テキ
②目標（的）とするものを手に入れる

↓つむ（ねらい定めて、取ろうとするものを取る） 例 摘出・摘発

適 テキ
②目標に向かって進んで行く

↓目的地に行きつく（本義）

↓うまく行く 例 適中・適正

↓ちょうどよい 例 適当・適度

敵 テキ
②目標とする相手に対して武器を取る

↓目ざす相手 例 対敵・敵軍

↓対等の相手 例 好敵手・無敵

石井方式 漢字の覚え方



問 次の「ことば」の意味を解きなさい。

一、摘要 二、適材 三、宿敵 四、過言

己 キ
曲がりくねった糸をかたどった
もの。糸の先端を表わしてキ い
る。

① (糸の)はじめ (紀の本字)

自分がすべてのはじめであるから→

② おのれ

紀 キ
① 糸のはじめ

↓はじめ 例 紀元

↓記の仮借 例 紀行

記 キ
① 言 (ことば) を糸のように続ける

↓しるす (ことばを整理し、順序立てる)

忌 キ
② おれがおれがと言つじはいむべきである

↓いむ 例 嫌忌・吟遊

改 カイ
② あやまちを犯したおのれを鞭うつ

↓あらためる 例 改心・改革

注 カイの発音はキの変化 (kite)。

起 キ
① 走ることのはじめは立ち上がるいと

↓たつ 例 起立

↓おきる (おひる) 例 起床・起居・興起

答 一、要点を摘要する意で、抜き書きのこと。二、ある事にうまくあてはまつた才能を持つ人を言つ。そういう人物をふさわしい地位につけることを“適材適所”と言つ。

三、ずっと前から敵対関係にある相手。

四、言いすぎ。

↓はじめ 例 起工・起原・起算

辟 ヘキ

門 ヘキ と口。辛は受刑者に 黜 いれすみ を施すときに用いる針の象形。"づらい" "がらい" の意に用いられる。門は、人(戸)に黥を施す意で "罰する" こと。

① 口 (ヘキという名の玉)

② 門 つみ (罰)

璧 ヘキ ① 辟が罰の意に用いられるので、玉を加えて玉専用の字を作った

↓たま 例 双璧 (二つの玉、転じてふたりのすぐれた人物)・完璧

避 ヒ ② 罰から逃げ遠ざかる

↓さける 例 避難・避暑

僻 ヘキ ② 罰を受けた人

↓ひがむ 例 僻見

↓かたよる 例 僻地・僻陬 スウ

壁 ヘキ △ 風や寒さを避けるための土の障壁

↓かべ 例 城壁・絶壁

癖 ヘキ ② かたよった (僻) 病気 (好みのかたより)

↓くせ 例 酒癖・盜癖・潔癖

譬 ヒ △ 物事を直接に言うのを避けて遠まわしに言う

↓たとえ 例 譬喻

臂 ヒ △ いやな人を避けるために使うところ

↓ひじ 例 臂鉄砲

闢 ヘキ △ 門の両扉を左右 (避) におし開くこと

石井方式 漢字の覚え方

粕

②

↓記録
例 竹帛

↓はく (白い厚手の絹、礼物として贈答用に使われた)

例 幣帛

帛

② 白い布

↓記録
例 竹帛 (紙のない時代には、竹簡と帛とは紙の代わりに用いられた)

舶

① 大きい舟

例 船舶・舶来

↓いちばん年上の兄 例 伯仲叔季

伯

① 大きい人

例 伯仲叔季

百 ① 黄 親指で十の十倍を表わした (百は一白の意である)

注 白は漢音 白は吳音。

② 白い 例 白日・白光

注 白は漢音 白は吳音。

白 ハク

親指の象形字。

日の象形をもとにした指事字。

① 親指 (大きい指)

△ 雷鳴のつんざくのような音 例 霹靂

レキ

【問】 次のことばの読み方と意味を説きなさい。

一、完璧 二、潔癖 三、僻論 四、逃避

△ 刀で切り開くこと

↓ つんざく 例 破開・劈断

【注】 ビヤクは吳音。

↓ひらく 例 天地開闢 カイビヤク

答 一、カンペキ・無傷の宝玉の意

で、欠点のない、完全の意に用いる。

二、ケツペキ・不潔 (不正) を極度にきらう性質を言う。 三、ヘキロ

ン・かたよった議論。 四、トウヒ・

避けてのがれること。

石井方式 漢字の覚え方

泊 ^{ハグ}
 ② 海水の白く見える浅い所
 ↓酒かす

舟のとまる所
 ↓とまる 例 碇泊・宿泊

拍 ^{ハグ}
 △ 白はパンという手を打つ音を表わす
 ↓手をパンと打つ 例 拍手

問 次のことばの意味を問う。

一、功名を竹帛に垂る 二、舶来 三、碇泊

半 ^{ハニ}

牛(つまり物)を二つに分(ハ)かつという意味の字。

① 物を二つに分かつ

② はんぶん

判 ^{ハシ}
 ① 刀(ハ)で二つに切り分ける(昔、証書などを二つに切り、それを分けて保管し、後日の証拠とした。二つが合えば真偽が判明する)

↓真偽をわかつ 例 判明・判断

↓わり印 例 印判・判子

伴 ^{ハシ}
 ② ふたり一組みの半分(英語のベターハーフ)

↓つれあい 例 伴侶・同伴

↓おとも 例 随伴・伴奏

畔 ^{ハシ}
 ② 衣の上半分

↓シャツ(ブラウス) 例 襦袢 ^{ジュバン}

答 一、功績を立て、名を歴史にとどめる。二、外国から輸入される意。三、船が碇 ^{いかり}をおろしてとまる意。

畔 ^{ハシ} ① 田を二つに分ける境のあぜ

↓あぜ (本義)

↓さかい 例 湖畔 (湖と陸地との境)

×拌 ^{ハシ} ② 異なつた物を半分ずつ合わせ、手でかきまぜる

↓かきまぜる 例 拌拌

【問】次のことばの読みと意味を問う。

一、攬挫 二、相伴 三、判事

宛 ^{エン}

ヘニ家 タニ肉 ハニス

人が膝を曲げてやつと食べていられるだけの家。

① 小さな家

② 自宅 (謙称)

【注】石井宛という使い方は、元来 “石井宅” と同義で、『石井宅に送る』というのを『石井あてに送る』と誤り読んだもの。



③ 屈曲 (巳の意味)

×蜿 ^{エン} ③ 蛇のように屈曲している様を言う

例 蟠蛇・螺々長蛇の列

×豌 ^{エン} ③ 屈曲した 蔓になる豆

↓豌豆 (えんどう)

×婉 ^{エン} ③ なよなよ (屈曲) とした婦人

↓しなやか 例 婉然

↓遠まわし 例 婉曲 (直接にその事を言わず、遠まわしに言う)

石井方式 漢字の覚え方

答 一、コウハン・攬は交 (混じる) の仮借の覚と手との会意形声字で、かきまぜる意。カクハンと慣用読みされている。二、ショウバン (熟語 編参照) 三、ハンジ・裁判官。事の是非をかつといいう意味のことば。

(3) 重ねる

梅 バイ △ 梅の仮借 梅の本字は某、甘い実のなる木の意

誨 カイ ③ 言 (ことば) を重ね、ねんごろに教える
↓うめ 例 白梅・梅花

晦 カイ ③ 言 (ことば) を重ね、ねんごろに教える
↓おしえる 例 教誨・誨告

晦 カイ ① 日が茂った草に隠れて暗い
↓くらい 例 晦冥・昏晦

↓月のない暗夜 (みそか) 例 晦日

海 カイ △ 晦冥なる海原 (海は深くて暗い)

↓うみ 例 海洋・海水

【注】 海は深くて暗いので “溟” とも言う。南溟は南方の海、南海と同義。



悔 カイ △ 悪いことをして心が暗いこと

↓くやむ 例 後悔・悔悟

【問】 次のことばの読みと意味を問う。

一、晦渢 二、誨言 三、悔悟

人が立って足を交差させている形を表わしたもの。

交 コウ

【答】 一、カイジュウ・暗く渢いの意で、文章がわかりにくいくこと、物事がうまくいかないことを言つ。二、カイゲン・教えさとすことば。三、カイゴ・あやまちに気つき、残念に思うとともに、二度とあやまちを犯さぬよう反省すること。

① まじわる (まじえる) 例 交際・交通

② ませる (まじる) 例 混交・交錯

③ かわる (かえる) 例 交換・交代

石井方式 漢字の覚え方

校 コウ

① 両足を交わらせたまま動けないように固定させる木製の刑具。足かせ。罪人を “じ

石井方式 漢字の覚え方

らべるのに用いた

↓しらべる 例 校正・校訂・校閲

↓しらべまなぶ所 例 学校

效 ① 強制(爻)して交わらせまねさせる(効)

↓ならう(まねる) — (本義)

↓きく(ききめがある) 例 効果

絞 ① 糸をねじり合わせてしづる

↓しづる 例 タオルを絞る

↓しめる(ぐびる) 例 絞首刑

×咬 ① 口が交わる

↓かむ 例 咬采(野菜をかむ、つまり、粗食することを意味)

郊 ① 邑(まち)と邑との交わるところ

↓町はずれ 例 郊外・近郊

狡 ① 人によく狙れたかしこい犬

↓すばしこい

↓ずるい 例 狡猾・狡猾

較 ① 車の中で立つときつかまる鉤(かぎ)鉤は並んでついているので

↓ならう(比)

↓くらべる(比) 例 比較

【注】比較は誤読されたものの慣用。

石井方式 漢字の覚え方

比

• ヒは人の象形。人がふたり並んでいる形を表わした会意字。

① ならぶ (本義) 例 比翼・比年・比類

② くらべる 例 比較・比率・無比

注 ふたり並べば、どちらが大きいか、色が黒いか、すぐ比較が始まる。

比 ① 屋根の下に屋根とならんで設けられた小さい屋根 (宀は家のしるし)

↓ひさし

↓かばう 例 庇護

皆 ① 百人の人がならんでいる (白=百)

↓みな 例 皆無・悉皆

偕 △人々皆いっしょに

↓ともに 例 偕楽・偕老同穴

- 82 -

階 ① 崖 (厓) を登るために並んでつけられた段々

↓きざはし 例 階段

↓順序 (等級) 例 階級・位階

各

カク

意味の音。

① おりる (下降)

② いたる

③ おのの

客
カク
② 家にいたる人

↓きやく 例 来客・賓客

久は下向きの足の形。口は発音を表わす。口は峯 (夕・ヰは下向きの両足) の

格 カク ② 木の根が下へ下へと伸びいたる

↓根を張る (本義)

↓元を固める (基) 例 人格

↓基準 例 格式・合格・資格

閣 カク ① 門の扉とびらがおりる (門をしめる)

↓門のかんぬき (本義)

↓りっぱな門のある家 例 楼閣

↓役所 例 内閣

△ 捩 カク 筆を持つ手を止める (閣)

↓おく (止める) 例 捩筆

落 ラク ① 草や花がしほみ下にいたる

↓おちる 例 落葉・落花・没落

絡 ラク ① 糸が下に落ちてからまる

↓からむ (本義)

↓つながる 例 連絡

↓糸すじ 例 脈絡

〔問〕 次のことばの意味を問う。

一、合格 二、擩筆 三、落筆 四、籠絡

語編参照。

答

一、一定の基準に合う

意。二、筆を置くの意で

文を書くのをやめること。

三、筆をおとすの意で文を書き始めること。四、熟